1　歴史的かなづかいに慣れよう

◇学習の要点◇

◆「歴史的かなづかい」の「現代かなづかい」への書き改め方

1　語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例　かは→かわ　思ひ出→思い出　とふ→とう
　　まへ→まえ　かほ→かお

2「ぢ・づ」→「じ・ず」

例　もみぢ→もみじ　よろづ→よろず

〈注意〉現代かなづかいでも「ぢ・づ」となるものもある。

例　つづく　ちぢむ　気づく　はなぢ

3「ゐ・ゑ・を」→「い・え・お」

例　ゐど→いど　こゑ→こえ　をとこ→おとこ

4「ア段＋う（a＋u）」→「オ段＋う（o＋u）」

例　やうす→yausu→yousu→ようす
　　あふぎ→あうぎ→augi→ougi→おうぎ

5「イ段＋う（i＋u）」→「（イ段＋）ゅ＋う（yu＋u）」

例　しうり→siuri→syuuri→しゅうり

6「エ段＋う（e＋u）」→「（イ段＋）ょ＋う（yo＋u）」

例　てふてふ→てうてう→teuteu→tyoutyou→ちょうちょう

7「くわ・ぐわ」→「か・が」

例　くわし→かし　ぐわんじつ→がんじつ

8「む」→「ん」

例　行かむ→行かん　せむかたなし→せんかたなし

SAMPLE

1　次のことばを現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

□(1)　おほかた　□(2)　にはか雨　□(3)　ゆゑ
□(4)　しづかなり　□(5)　ゐのしし　□(6)　くふ
□(7)　ふぢ　□(8)　きのふ　□(9)　ゐなか
□(10)　わらひごゑ　□(11)　まゐる　□(12)　つはもの
□(13)　をとめ　□(14)　おほひ　□(15)　あはせる
□(16)　うゑる　□(17)　しづく　□(18)　をかし

(1)	(4)	(7)	(10)	(13)	(16)

(2)	(5)	(8)	(11)	(14)	(17)

(3)	(6)	(9)	(12)	(15)	(18)

2　次の古文と、その現代語訳を読んで、――線部のことばを現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

〈古文〉

ある人銭を①うづむ時、「②かまへて人の目には蛇に見えて、わが見る時ばかり銭になれよ」と③いふを、内の者聞き④ゐて、銭を掘りてとりかへ、蛇を入れ置きたり。くだんの亭主、後に掘りて見れば、蛇あり。「やれ、おれ⑤ぢや。やれ、見忘れたか」と幾度もなのりつるこそ聞き事なれ。

〈安楽庵策伝「醒睡笑」より〉

〈現代語訳〉

ある人が銭を（土の中に）埋める時に、「きっと人の目には蛇に見えて、

私が見る時だけ銭になれよ」と言うのを、家の者が聞いていて、銭を掘り出して代わりに、蛇を入れておいた。前述の（銭を埋めた）亭主が、後で掘って見ると、蛇がいる。「おい、私だ。やあ、見忘れたか」と何度も名のったというのは、聞く価値のある話である。

□

①	②	③	④	⑤

5

3　次のことばを、（　　）内の漢字で表したことばを参考にして、現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

□(1)　かうし（格子）　□(2)　かうだう（講堂）
□(3)　さうし（草子）　□(4)　ざふごん（雑言）
□(5)　たふとし（貴し）　□(6)　はふべん（方便）
□(7)　やうじゃう（養生）　□(8)　いうぜんぞめ（友禅染め）
□(9)　きうしゅ（旧主）　□(10)　きふしょ（急所）
□(11)　じふごや（十五夜）　□(12)　ちう（宙）
□(13)　にふだう（入道）　□(14)　えうじ（要事）
□(15)　けふ（今日）　□(16)　せうしゃう（少将）
□(17)　てうし（調子）　□(18)　れうり（料理）

(1)	(4)	(7)	(10)	(13)	(16)

(2)	(5)	(8)	(11)	(14)	(17)

(3)	(6)	(9)	(12)	(15)	(18)

4　次のことばを現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

□(1)　さうざうし　□(2)　てうづ　□(3)　まうす
□(4)　かうべ　□(5)　くわんぜおん　□(6)　きゃう
□(7)　やうやく　□(8)　うつくしう　□(9)　やむごとなし
□(10)　せうせう　□(11)　ゑかう　□(12)　ぐわいぶん

(1)	(4)	(7)	(10)

(2)	(5)	(8)	(11)

(3)	(6)	(9)	(12)

5　次の古文と、その現代語訳を読んで、――線部のことばを現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

〈古文〉

笛（ふえ）は、横笛①いみじう②をかし。遠（とほ）うより聞こゆるが、③やうやう④ちかうなりゆくもをかし。近かりつるが、はるかになりて、いとほのかに聞こゆるもいとをかし。

〈清少納言（せいしょうなごん）「枕草子（まくらのそうし）」より〉

〈現代語訳〉

笛は、横笛がたいそうすばらしい。（その音が）遠くから聞こえるのが、だんだん近づいてくるのも趣深い。（逆に）近くに聞えていたのが、ずっと遠くになって、ほんのかすかに聞えるのもまた趣深い。

□

①	②	③	④

SAMPLE

8 説話

1 次の古文と、その現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈古文〉

信安といふものありけり。世の中に強盗はやりたりけるころ、もし家さがさるる事もぞあるとて、強盗をすべらかさむ料に、日暮るれば、家の外に小竹を多く散らし置きて、つとめてはとりひそめけり。ある夜、家近く、焼亡のありけるに、あわてまどひて出づとて、その小竹にすべりて、①まろびにけり。腰を打ち折りて、年の寄りたれば、ゆゆしく②わづらひて、日数経てぞからくしてよくなりにける。いたく③支度の勝れたるも、④身に引きかづくこそをかしけれ。

〈橘成季「古今著聞集」より〉

〈現代語訳〉

信安という人がいた。世間に強盗が横行しているころ、もしかしたら家探しされることがあるかもしれないといって、強盗をすべらせるためのものとして、日が暮れると、家の外に小さな竹を数多く分散して置いて、翌朝はとりかたづけた。ある晩、近所で、火事があったので、あわてて外へとび出そうと思って、その小竹にすべって、ころんでしまった。腰を打ち骨折して、年をとっていたので、ひどく苦しみ、日数がたって、やっとのことでよくなった。あまりに支度が整っているのも、＊とはこっけいなことだ。

□(1) ——線②「わづらひて」を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。 1

□(2) ——線①「まろびにけり」の主語を、〈古文〉の中から書き抜いて答えなさい。 3

□(3) ——線③「支度」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□① 「支度」の具体的な内容が述べられている部分を、〈古文〉の中から十五字で書き抜いて答えなさい。

□② 信安は、どんな目的のために、この「支度」をしたのですか。「目的」に当たる内容を、〈古文〉の中から十一字で書き抜いて答えなさい。

□(4) ——線④「身に引きかづく」の現代語訳として＊に入る最も適切なことばを次から選び、記号で答えなさい。 4

ア　逆に身体の心配のしすぎにつながる
イ　逆に我が身にふりかかって災いのもとになる
ウ　かえって年寄りにはいい薬になる
エ　かえって取り越し苦労に終わってしまう

□(5) 本文は、出来事を述べた前段と、筆者の考えを述べた後段とに分けられます。〈古文〉の中から、後段の初めの三字を書き抜いて答えなさい。

□(6) 本文の内容と最も関係の深い格言を次から選び、記号で答えなさい。

ア　備えあれば憂いなし
イ　過ぎたるは及ばざるがごとし
ウ　良薬は口に苦し
エ　虎穴に入らずんば虎児を得ず

SAMPLE

2　次の古文と、その現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈古文〉

今は昔、木こりの、山守に斧を取られて、わびし、心うしと思ひて、頬杖つきて①をりける。山守見て、「さるべき事を申せ。取らせん」といひければ、

悪しきだになきはわりなき世間に＊よきを取られてわれいかにせんと②詠みたりければ、山守、返しせんと思ひて、「ううううう」とうめきけれど、③えせざりけり。さて、斧返し取らせてければ、うれしと④思ひけりとぞ。⑤人はただ歌を構へて詠むべしと見えたり。

〈「宇治拾遺物語」より〉

〈現代語訳〉

昔のこと、木こりが、山の番人に斧を取られて、困った、⑥情けないと思って、頬杖をついていた。山の番人が見て、「何か気のきいたことを言え。（そうしたら）あげよう」と言ったので、

悪い物でさえなくては困る世の中で、よきをとられて、私は⑦どうしよう

と詠んだので、山の番人は返しの歌を詠もうと思って、「ううううう」とうめいたが、できなかった。それで、斧を返してやったので、うれしいと思ったということだ。［　＊　］と思われる。

（注）よき＝斧と「良き」とが掛詞になっている。

□(1)　――線①「をりける」を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。［1］

［　　］

□(2)　――線②「詠みたりければ」・④「思ひけり」の主語の組み合わせとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。［3］

ア　②木こり　④山守　　イ　②木こり　④木こり

ウ　②山守　④木こり　　エ　②山守　④山守

［　　］

□(3)　――線③「えせざりけり」とありますが、何をすることができなかったのですか。「～こと。」という形で答えなさい。［3］

［　　こと。］

□(4)　――線⑤「人はただ歌を構へて詠むべし」の現代語訳として［＊］に入る最も適切なことばを次から選び、記号で答えなさい。

ア　人はいつも身構えたままで歌を詠むようにしなければならない

イ　人は木を切るときには歌を詠みながら切らなければならない

ウ　人はいつも歌を詠めるように心がけておかなければならない

エ　人は歌を詠むときには姿勢を正して詠まなければならない

［　　］

□(5)　――線⑥「情けない」・⑦「どうしよう」ということばは、〈古文〉の中ではどのように書かれていますか。それぞれ書き抜いて答えなさい。［2・4］

⑥［　　］

⑦［　　］

□(6)　「宇治拾遺物語」が成立した鎌倉時代の文学の様子について述べた文として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。［7］

ア　俳人の松尾芭蕉が奥羽・北陸の各地を巡り、その旅をもとに「おくのほそ道」を著した。

イ　語り物として、琵琶法師が平家一門の栄華と滅亡の様子を語った「平家物語」が作られた。

ウ　宮廷に仕える女性たちが活躍し、紫式部が「源氏物語」を、清少納言が「枕草子」を著した。

エ　貴族ばかりでなく、農民や兵士の歌なども集めた現在最古の歌集である「万葉集」が編まれた。

［　　］

SAMPLE

3 **次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

これも今は昔、①ゐなかの児の比叡ア の山へ＊登りたりけるが、桜イ のめでたく咲きたりけるに、風ウ のはげしく吹きけるを②見て、この児さめざめと泣きけるを③見て、僧エ の＊やはら寄りて、「④などかうは泣かせ給ふぞ。この花の散るを、⑤惜しう覚えさせ給ふか。桜ははかなきものにて、＊かく程なく⑥うつろひ候ふなり。されども、⑦さのみぞ候ふ」と慰めければ、桜の散らんは、＊あながちにいかがせん、苦しからず。わが父オ の作りたる麦の花散りて、＊実の入らざらん思ふがわびしきと言ひて、＊さくりあげて、よよと泣きければ、＊うたてしやな。

〈「宇治拾遺物語」より〉

（注）登りたりける＝奉公や修行のために寺に入ること。
やはら＝そっと。
かく程なく＝こうしてすぐに。
あながちにいかがせん＝しいてどうということはない。
実の入らざらん思ふ＝実らないのではないかと思う。
さくりあげて＝すすりあげて。
うたてしやな＝がっかりさせられる話だ。

□(1) ——線①「ゐなか」・⑤「惜しう」・⑥「うつろひ」を、それぞれ現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。R1

①［　　］
⑤［　　］
⑥［　　］

□(2) ——線②・③「見て」は、それぞれだれの動作ですか。本文中からそれぞれ一字で書き抜いて答えなさい。R3

②［　　］
③［　　］

□(3) ——線④「などかうは泣かせ給ふぞ」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。R4

ア　なぜこのように私が来たからとお泣きになるのか。
イ　なぜこのようにさめざめとお泣きになるのか。
ウ　なぜこのように桜が咲いたからとお泣きになるのか。
エ　なぜこのような山の中でお泣きになるのか。

［　　］

□(4) ——線⑦「さのみぞ候ふ」は、「それだけのことですよ」という意味ですが、その内容をくわしく説明したものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　桜の花が散るのを見て泣くのは当然だということ。
イ　桜の花が散るのは残念なことだということ。
ウ　桜の花が散るのは当然だということ。
エ　桜の花を散らすのは激しい風だということ。

［　　］

□(5) 本文中には、児が語った言葉があります。その初めと終わりの四字をそれぞれ書き抜いて答えなさい。R3

［　　～　　］

□(6) ——線ア～オ「の」うち、**他と意味・用法が異なるもの**を一つ選び、記号で答えなさい。R4

［　　］

□(7) 本文の鑑賞文として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　僧と児のものの見方がずれていることによるおかしさがある。
イ　親思いの児に対して、作者は共感している。
ウ　ささいなことですぐ泣く児へのいましめを感じる。
エ　児への僧のやさしさを、作者は賞賛している。

［　　］

SAMPLE

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある＊在家人、山寺の僧を信じて、＊世間出世のこと、深く＊頼みて、①病むこともあれば、薬なども問ひけり。この僧、＊医骨も②なかりければ、よろづの病に「藤のこぶを＊煎じてめせ」と③をしへける。信じてこれを④用ゐけるに、よろづの病＊癒えずといふことなし。ある時、⑤馬を失ひて、「⑥いかがつかまつるべき」といへば、例の「藤のこぶを煎じてめせ」と⑦いふ。⑧心得がたかりけれども、＊様ぞあるらんと信じて、⑨あまりに取り尽くして、近々にはなかりければ、少し遠行きて、山のふもとを尋ぬるほどに、谷の辺より、失ひたる馬を見つけけり。これも＊。

〈無住「沙石集」より〉

（注）在家人＝出家していない人。
世間出世＝世の中や仏道。
頼みて＝頼りにして。　医骨＝医術の心得。
煎じてめせ＝煮て、成分を出してお飲みなさい。
癒えず＝治らない。
様ぞあるらん＝理由があるのだろう。

□(1) ——線③「をしへ」・④「用ゐ」を、それぞれ現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。R1

③ ［　　］
④ ［　　］

□(2) ——線①「病むこともあれば」・②「なかりければ」を、それぞれ口語訳しなさい。R4

① ［　　］
② ［　　］

□(3) ——線⑤「馬を失ひて」・⑦「いふ」の主語を、それぞれ本文中から書き抜いて答えなさい。R3

⑤ ［　　］
⑦ ［　　］

□(4) ——線⑥「いかがつかまつるべき」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。R4

ア いつごろたずねたらよいでしょうか。
イ どうしたらよろしいでしょうか。
ウ だれに聞いたらわかるでしょうか。
エ なにが一番効くのでしょうか。

［　　］

□(5) ——線⑧「心得がたかり」とは「納得しにくい」という意味ですが、どうして納得しにくかったのですか。**「馬」「関係」**ということばを必ず用いて、**「〜から。」**という形で答えなさい。

［　　から。］

□(6) ——線⑨「あまりに取り尽くして」とありますが、何を「取り尽くし」たのですか。本文中から書き抜いて答えなさい。

［　　］

□(7) ＊に入る最も適切なことばを次から選び、記号で答えなさい。

ア 孝行の深き心よりおこれり
イ 信のいたすところなり
ウ 愚かなる人の世のならひなり
エ 罪深きことなり

［　　］

SAMPLE

5 **次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

元啓（げんけい）といふ者ありけり。年十一の時、元啓の父、①年老いたる親を山に＊捨てむとす。元啓しきりに＊いさむれども、もちゐずして、元啓と二人、＊手輿（たごし）を作りて、持ちて深山（みやま）の中に捨てつ。元啓、「この手輿を持ちて帰らむ。」といふに、ア父、「＊今は何にせむぞ、②捨てよ。」といふ時、「イ父の年老いたる時、また持ちて③捨てむためなり。」といふ。その時、ウ父、心づきて、我、エ父を捨てつる事、実に悪（あ）しきわざなり。④これを＊学びて、我を捨つる事＊ありぬべし。＊よしなき事をしつるなるべし⑤と思ひかへして、オ父を＊具して帰りて養ひける。この事＊天下に聞こえて、⑥父を教へ祖父を助けたる孝養の者なりとぞいひける。

〈無住「沙石集」より〉

（注）捨てむとす＝捨てようとした。
いさむれども＝忠告したけれども。
手輿＝人を乗せる道具の一種。
今は何にせむぞ＝今さらどうしようというのか。
学びて＝みならって。　ありぬべし＝きっとあるだろう。
よしなき事＝よくない事。　具して＝連れて。
天下に聞こえて＝世間に知れわたって。

□(1) ——線①「年老いたる親」と同じ人物を表すものを、**ア**～**オ**の「父」の中から**二つ**選び、記号で答えなさい。

□・□

□(2) ——線②「捨てよ」・③「捨てむ」とありますが、それぞれ何を捨てるのですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。R3

②
③

ア 元啓　**イ** 元啓の父
ウ 手輿　**エ** 元啓の祖父

□(3) ——線④「これを学びて」の主語を、本文中から書き抜いて答えなさい。R3

□(4) ——線⑤「と思ひかへして」とありますが、元啓の父が心の中で「思ひかへし」ている部分はどこからですか。初めの四字（読点も字数に数えます）を書き抜いて答えなさい。R3

□(5) ——線⑥「父を教へ」とありますが、どういうことを教えたのですか。**「捨てる」**ということばを必ず用いて、**「～こと。」**という形で答えなさい。

こと。

6 **次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

＊醍醐（だいご）の大僧正実賢（そうじょうじっけん）、餅（もち）をやきてくひけるに、＊きはめたる眠（ねぶ）りの人にて、餅を持ちながら、＊ふたふたとねぶりけるに、まへに江次郎といふ＊格勤者（かくごんしゃ）のありけるが、僧正のねぶりてうなづくを、われにこの餅くへと＊気色（けしき）あるぞと心得て、走りよりて①手に持ちたる餅をとりて②くひてけり。僧正＊おどろきてのち、「ここに持ちたりつる餅は」とたづねられければ、江次郎、「その餅は、③＊はやくへと候ひつれば、たべ候ひぬ」とこたへけり。僧正、＊比興（ひきょう）のことなりとて、諸人に語りてわらひけるとぞ。

〈橘成季「古今著聞集」より〉

（注）醍醐＝醍醐寺。
きはめたる眠りの人＝たちどころに居眠りを始めてしまう人。
ふたふたと＝うとうとと。
格勤者＝僧正の身辺の雑役に従っていた者。

SAMPLE

気色あるぞ＝合図をしているのだ。
おどろきて＝目をさまして。
はやくへと候ひつれば＝早く食べよということでしたので。
比興のことなり＝たわけたことである。

□(1) ——線①「手に持ちたる」・②「くひてけり」は、それぞれだれの動作ですか。本文中から書き抜いて答えなさい。[3]

①［　　］
②［　　］

□(2) ——線③「はやくへ」というように理解したのは、僧正のどのような動作からですか。本文中から六字以上、十字以内で書き抜いて答えなさい。

［　　］

7 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

今は昔、安陪仲麿といふ人ありけり。①遣唐使として物を②習はしめむがために、＊かの国に渡りけり。＊あまた**ア**の年を経て、＊え返り来ざりけるに、また＊この国より藤原清河といふ人、遣唐使として行きたりけるが、返り来たりけるに③伴ひて返りなむとて、＊明州といふ所**イ**の海**ウ**の辺にて、かの国の人＊うまのはなむけしけるに、夜になりて月**エ**の＊いみじく明かかりけるを④見て、＊はかなき事につけても、この国の事思ひ出でられつつ、恋しく悲しく思ひければ、この国**オ**の方をながめて、かくなむよみける、

＊あまのはらふりさけみれば＊かすがなるみかさの山にいでしつきかも

といひてなむ⑤泣きける。

〈「今昔物語集」より〉

（注）かの国＝あちらの国。ここでは、唐。　あまた＝たくさん。
え返り来ざりけるに＝帰国できなかったが。
この国＝ここでは、日本。　明州＝浙江省寧波付近。
うまのはなむけ＝送別会。　いみじく＝たいそう。
はかなき事＝ちょっとしたこと。
あまのはらふりさけみれば＝大空をはるか遠くながめると。
かすがなるみかさの山＝(故郷の)春日の地にある三笠山。

□(1) ——線②「習はしめむ」を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。[1]

［　　］

□(2) ——線**ア**～**オ**「の」の中で、主語を示すはたらきをしているものはどれですか。一つ選び、記号で答えなさい。[4]

［　　］

□(3) ——線③「伴ひて返りなむ」・④「見て」の主語は、それぞれ、だれですか。本文中から書き抜いて答えなさい。[3]

③［　　］
④［　　］

□(4) ——線⑤「泣きける」とありますが、そのときの気持ちを、「**故郷**」ということばを必ず用いて、「**～気持ち。**」という形で答えなさい。

［　　気持ち。］

□(5) ——線①「遣唐使」の廃止によって盛んになった文化を代表する人物として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。[7]

ア 兼好法師　**イ** 小林一茶
ウ 清少納言　**エ** 大伴家持

［　　］

SAMPLE